

っていると考えられる。

- 1989年放流群の天然魚に対する混獲率が辺土名放流群で年間23.5%、羽地放流群で8.9%と最高値を示した。これは放流群の回収が比較的良かったこと、天然群の加入が過去最低であったことが重なったことが原因である。

6) 経済効果及び事業化への見通し

- 1993年1年間の放流魚の推定水揚尾数及び金額は名護漁協分402尾、12万円、国頭漁協分234尾、7万円程度となった。
- 天然群の加入量の年変動が2～3倍の幅で見られることから、種苗放流による増殖の可能性は十分に考えられるが、事業化への見通しは放流後の生残率の向上を図る以外は難しいと考えられる。

I 種苗生産

1 方法

親魚は21尾（雌雄不明5～6才、尾叉長48～57cm、体重2.0～3.3kg）で、採卵から収容までは昨年と同様である。種苗生産の餌料系列は、タイ国産ワムシ（日令3～10）－S型ワムシ（日令11～35）－アルテミア（日令25～40）－配合餌料（日令25～45）である。他に適宜、マダイとハマフエフキの卵（活あるいは冷凍）を与える場合もある。ワムシの1次培養はナンノクロロプシスと海洋酵母（三井株式会社）と濃縮クロレラ（太平洋貿易）で行い、2次培養はタイ国産はナンノクロロプシスだけ、S型はドコサユグレナ（ハリマ化成）で行った。アルテミアはふ化後、ドコサ65Eで19～23時間栄養強化した。

2 結果

表1に種苗生産結果を示した。開口時（日令3）から10～14日間タイ国産ワムシを投与することで初期の飼育は概ね安定していた。しかし、12回次のうち3回は日令15までの生残数が5万以下だったため飼育を中止した。残りの9回では日令20頃までの生残率が20～40%であるが、日令30以降の共食いが激しく日令45くらいまで1日

表1 平成6年度種苗生産結果

魚種	ハマフエフキ
卵収容日	4/23～7/1
生産回数	12（うち中止3）
収容卵数	34,532
ふ化率（%）	73.6
ふ化仔魚数（千尾）	25,402
飼育日数	13～59
取上平均全長（mm）	21.6
取上尾数（千尾）	484
生残率（%）	1.9（0～5.9）
飼育水温（℃）	20.2～29.0